

## 別添資料11 人口予測とごみ発生量予測による運転日数試算

### 1. 人口とごみ量の減少予想(ごみ処理基本計画から推定)

年度	R8	R12	R17	R22	R27	R32
ごみ処理人口 (人)	82,395	79,714	76,709	74,062	72,106	70,044
ごみ発生量 (t/年)	22,885	21,788	20,423	19,112	18,054	16,976
焼却炉規模 (t/日)	86	82	76	72	68	64
焼却炉規模 (災害廃棄物含) (t/日)	95	91	84	80	75	71

### 2. 運転計画 (稼働日数)

年間稼働日を330日と仮定して、ごみ発生量から稼働日数を計算したもの

各焼却炉は、処理能力の90%のごみを焼却するものとして算定

年度	R8	R12	R17	R22	R27	R32
85 t (2炉運転日数) (日)	208	183	151	120	95	69
42.5 t (1炉運転日数) (日)	122	147	179	210	235	261
稼働日数 (日)	330	330	330	330	330	330

※上記計算は、計算例として示したものであるため、設計時には各条件を精査して採用値を決めること

$$85 \text{ t} (95 \text{ t/日} \times 90\% \text{ 焼却とする})$$

$$85 (330 - X) + 42.5X = \text{ごみ焼却量 (t)}$$

$$85 : 2 \text{ 炉運転能力 (t)}$$

$$42.5 : 1 \text{ 炉運転能力 (t)}$$

$$330 : \text{年間稼働日数 (日)}$$

$$X : 1 \text{ 炉運転日数 (日)}$$

### 3. 運転計画 (時期別)

		<10カ年>		<10カ年>		<10カ年>	
運転状況	運転時期	割合	R12	R22	R32		
2炉運転 日数	夏期 (5月～10月)	54%	99	65	37		
	冬期 (11月～4月)	46%	84	55	32		
1炉運転 日数	夏期 (5月～10月)	39%	57	82	102		
	冬期 (11月～4月)	61%	90	128	159		
年間稼働日数 (日)			330	330	330		

※上記計算は、夏期と冬期のごみ量から稼働日数を推定したものであるため、設計時には各条件を精査して採用値を決めること